



TITLE:

# 思想對策批判 - 我國現代の社會問題の意義と思想對策 -

AUTHOR(S):

石川, 興二

---

CITATION:

石川, 興二. 思想對策批判 - 我國現代の社會問題の意義と思想對策 -. 經濟論叢 1932, 34(6): 908-924

ISSUE DATE:

1932-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130189>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號 六 第

卷四十三第

行發日一月六年七和昭

## 論 叢

租稅賦課機關の問題

法學博士 神戸 正雄

利子に關する試論

文學博士 高田 保馬

國民所得の分配の型を論ず

經濟學博士 汐見 三郎

魚 食 論

法學博士 財部 靜治

## 時 論

思想對策批判

經濟學博士 石川 興二

## 研 究

集團に就いて

經濟學士 蜷 川 虎三

支那國民經濟序説

經濟學士 大上 末廣

## 説 苑

外米關稅の外米市價に及ぼす影響

經濟學士 八木芳之助

松江藩の人蔘專賣と維新後の處分

經濟學士 堀江 保藏

婚姻率の自律性に就いて

經濟學士 三谷 道麿

## 附 録

新着外國經濟雜誌主要論題

本誌第三十四卷總目錄

時 論

思想對策批判

我國現代の社會問題の意義と思想對策

石 川 興 二

目次  
一、序——二、社會變革の一般的意義——三、我國史上に於ける社會變革と現代社會問題の意義——四、社會問題の意義に基く思想對策の考案——五、結論

一、序

日々切迫しつゝある現代日本の社會問題とこれに伴ふ思想問題とは、文部省の學生思想問題調査委員會をして學生左傾思想の諸『原因』とこれが『對策』とを發展せしむるに至つたのであるが、其『原因』として舉るところは、殆んど現代社會問題の總てを蓋ひ、而して『對策』に於てはこれ等諸原因の各に對する方策が示めされて居るのである。

私はこゝに此等の諸對策の各について批判せんとするのではない。むしろ思想對策なるものゝ

1) 大阪毎日新聞五月二日夕刊參照。

根據を問題としたいと思ふのである。即ち現代日本の思想對策を如何なるものと思ふるか云ふことは現代日本の社會問題の根本的意義を如何なるものと思ふかによつて定まるのである。而も現代日本の社會問題の根本的意義を如何なるものと思ふかと云ふことは社會變革一般の意義を如何なるものと思ふかによつて定まるのである。かくて私は茲には思想對策批判の基礎として社會變革一般の構造及現代日本の社會問題の意義を考察することを中心とするのであつて、思想對策なるものは此基礎より初めて根本的に批判され得ることとなるのである。

## 二、社會變革の一般的意義

明治大帝は『五ヶ條の御誓文』に於て、「未曾有の變革」の時に當りと宣はせられて居られるのであるが、今日の我國に於ては再び社會の變革が問題となつて居るのである。然らば變革と云ふことは如何なることであらうか。

個人的生に於てもまた社會的生に於ても、その生命の生活力が旺盛である限り、生の進展の問題は起らざるを得ないのである。この點に於て生命なるものは變革の本質を有して居るのである。即ちこれを自己の學問的生命的のみについて顧みて見るも、其生命は自己を學術的作品として外界に表現することによつて完成するものであり、而もこの表現を土臺として次の發展を續ける。而して其成長が或程度に達するならば、其の生命は以前の表現に満足すること能はずして、此舊

き表現を止揚し新しき表現をなすのである。かくて學問的生命はその成長力が止まらざる限り、かくの如き變革的構造によつて絶へず其發展を續けて行くのである。更にこれを個人の生活全體について見んに、我々は眞劍に生きんとするならば自己の生活にとつて最善と考へる生活計畫 Lebensplan を打立て、この下に於て生活して行くのである。かくて生命が成長して行くならば最早や、嘗ての生活計畫にもりきれ得ざるものとなる。こゝに於て我の生命は嘗ての生活計畫を止揚して、新なる生活計畫を打立て、而してこの下に於て新なる發展を遂げて行くのである。即ちかくの如き變革的過程の聯續の中に於て生命は成長發展し行くのである。

かく個人の生命について見たるところのものはまた社會についても同様である。社會の制度なるものは社會的生命の表現である。而して此制度を表現せし其社會的生命はこの制度の下に於て成長し行くのである。かくてその生命がもはや、嘗ての表現であるところの既存の制度の下に於ては、自己の成長發展を續け得ざるに至る時、茲に其生命は既存の制度と矛盾に陷るのである。これ即ち社會變革の段階である。而して此社會的生命の活力が尙ほ旺盛である限り、この生命は嘗ての表現たる既存の制度を止揚し、新なる表現としての制度を打立て、この下にその發展を續けるのである。辯證法的發展とは生命と表現とのかくの如き關係を意味するものでなければならぬ。即ち表現なるものは生命よりの表現であつて生命に一致して居るものであるが、やがて兩者は矛盾に陷り、生命は既存の表現の下に苦むに至るのである。これ變革の時代である。かくて

其生命が舊き表現を止揚し、新なる表現を打立てる時、兩者は再び統一にもたらさるゝのである。

扱て生命が既存の表現との矛盾に陥り、この表現を止揚して新なる表現を爲さざるを得ざるに至る時、その生命は自己自身の中に深く沈潜し行かざるを得ないのである。即ちその生命は最も眞剣となり、深き自覺に到達し、この深き自覺よりして初めて既存の表現を止揚し新なる表現をなし得るのである。かくて生命はその生活力が旺盛である限り、其變革の度毎により深き自己の自覺と、從てより深き、より大なる自己の表現を達成するのである。こゝに「艱難汝を玉にす」なる語の深き意味がある。

かくの如く生命の變革なるものは、それが正しくなさるゝならば、生命のより深きより具體的な發展で、その生命にとつて最も喜ぶべきことであるが、而も生命の變革期は生命の危機である。一步誤れば、其生命の衰退はこゝに始まることとなるのである。今國民的生命と矛盾に陥りし既存の社會制度を固持する力が何等かの原因によつて異常に強力なる時は、これと矛盾に陥れる生命は遂にこれを止揚し得ず、其壓迫の下に萎縮し行くより外ないのである。個人の生命についても艱難汝を玉にすと云ふも、若しこの艱難がその生命にとつて餘りに強き壓迫となれば、其生命はその下に萎縮し終ることとなるのである。現に今日社會の多くの人々にとつては、貧困より生ずる困難はあまりに大であつて、遂にこれに打克つを得ず、其生命は萎縮し、遂に人間としての發展を遂げ得ずして其一生を終つて居るのである。これと同様に國民的生命も、其生命の變

革期に際してこれを壓迫する力があまりに大であれば、遂に萎縮し行く結果を齎らすのである。

今既存の制度を保守する方が何等かの原因によつて異常に強く、而も新に發展せんとする社會的生命の活力も亦これに劣らず強き時は、こゝに兩者の矛盾は極度に高まる。而して生命は遂に多くの犠牲を拂つて舊制度を突破せざるを得ないのである。これ即ち革命であつて、佛蘭西革命露西亞革命に於て我々はその典型的なる場合を見るのである。

これに反して制度が彈力性に富み、社會的生命の成長につれ漸時に變革し得る場合には、其社會變革は革命としてではなく、改革と云ふ形をとるのである。而して其最も良き例は英國民である。即ち英國民が一見保守的であるが如くにして而も其社會制度が絶へず進歩的であり、而も革命の慘を見ざるは其國民性が既存の制度を固守せず、社會的生命の發展の必要に應じて絶へず之を變化せしめ得る力を有するが故である。英國民が習慣法を重ずることもまた同様の國民性の表現であることが出来るのである。

かくて社會的生命の進展なるものは社會が無自覺である程多くの犠牲を拂つてなされるのであるが、社會が自覺的意識的である程合理的になされることとなる。茲に社會變革に關する確實なる意識が重要となるのである。而して此意識は其社會に於ける最も自覺的な人によつて代表される。此意識が學的意識に高まりしものが「實踐學」である。かくて實踐學なるものは初めて、古代ギリシャの社會變革期に當りアリストテレスによつて打立てられたのである。<sup>1)</sup>それ故に實踐學の

1) 拙著『精神科學的經濟學の基礎問題』(弘文堂刊行)参照

理想は社會變革の意義を十分に理解し、これに基いて其社會的生命をして最も正しき發展を遂げしむるが爲になさるゝ學的思索でなくてはならぬ。而してかくの如き實踐學を確立することが社會變革期に於ける精神科學者の最大なる任義である。それ故に精神科學者の理想は眞に其社會生命を愛し而してこれが爲めに徹底的なる學的思索を爲すところのものでなければならぬ。かくの如き實踐學を意識的中抽としてこそ初めて、社會變革に伴ひ勝であるところの多くの犠牲を脱れ、最も有意義なる社會的生命の發展を遂げ得るのである。今正しき思想對策なるものがあり得るとすれば、それはかくの如き實踐學的立場に立つものでなくてはならぬ。

### 三、我國史上に於ける社會變革と現代日本の社會問題の意義

我國現代の社會問題の意義は以上に於て考察せし社會變革の一般的意義に基いて明にし得るのであるが、更にそれは我國の歴史的發展の一段階として我國民生命の史的發展全體との聯關に於て明にし得るのである。

我國の歴史に於ては三つの劃期的な社會變革の時期を擧げ得るであらう。第一は原始社會の氏族制度を止揚し郡縣的制度を打立てし大化の改新であり、第二に郡縣的制度を止揚し封建的制度を打立てたる鎌倉開幕期であり、第三は封建制度を止揚し今日の制度を打立てたる明治維新の變



革である。而してこの三つの社會變革期の各は外國文化との特殊の關係を有して居る。即ち第一の變革期に於ては唐の文化を輸入し、第二の變革期に於ては宋元の文化を輸入し、第三の變革期に於ては西洋文化を輸入したのである。かくて我國の文化史上には四つの大きな時期（エポック）を劃することが出来る。即ち第一期の氏族制社會の文化が發展し來りし時、この文化が止揚せられて、新に唐及び印度の文化が含まれ、大化の改新を以て新なる文化の時期が始まつたのである。而して此外來の文化は藤原期に至つて全く日本精神に同化せられ、茲に第二期の文化は發展し切つたのである。かくてこの文化が止揚せられ、新に宋元の文化が輸入せられて鎌倉開幕の時期より再び新なる文化の時が始まつたのである。而してこの第三期の文化は江戸時代に至つて全く日本精神に同化せられ、個性化され切つたのである。かくてこの文化は止揚せられ、新に西洋の文化が輸入され、明治維新を以て新なる文化の時期が始つたのである。今や我々は西洋文化をあらゆる方面に於て輸入し盡したのであるが而も未だこれを日本精神に於て同化し切つて居らないのである。かくてこれ等輸入文化を再び同化し第四の文化期を完成することが今後の日本に課せられた課題である。かくの如く我國の文化が外國の文化を受入れてはこれを同化しかくて一の文化期を終り更にこれを繰返へし來れることは我國文化發展の特殊の構造であつて而も其文化がかくの如き長き時間を経過して尙若き所以である。

かくの如き特殊の構造を有する我國文化の發展の諸段階を貫いて我國文化の個性が現れて居

る。而してそれは一言にして云へば「情」の原理であり「愛」の原理である。<sup>1)</sup>それは特に各文化期の日本化の段階の表の現に於て最も明に見られ得る。また諸種の文化域の中我國文化が世界に對して特に誇り得るものが宗教と藝術であり、更に人間生活に於ける「愛の結び」<sup>2)</sup>であると云ふことは我國文化の個性が「情」の原理にあることを示めすものである。此我國文化の個性と發展の構造とは藝術史上に於て最も明瞭に而して象徴的に見られ得る。今我國の建築史について見るも、原始時代の文化を象徴するところのものは大社及神明造であるが、大化革新前の百濟文化輸入時代の表現は百濟式七堂伽藍の模倣である法隆寺に於てこれを見ることが出来る。また唐の文化輸入時代の表現は、白鳳期に於て唐式伽藍の模倣である藥師寺三重塔に於て見ることが出来る。これ等輸入文化が日本精神に同化せられたる純日本の表現は、藤原期の宇治の鳳凰堂に於てこれを見ることが出来る。即ち鳳凰堂は阿宇池の中にあり、宇治川の清流を隔てて朝日山に對し、その和らかく延やかなる堂宇は四圍の自然と全く融合して居るのである。鎌倉時代に始まる新なる文化期は宋元の文化を輸入したのであるが、これを建築史上に見るならば、源賴朝が天下を掌握し鎌倉に居を構へ、禪宗は鎌倉を中心として起り禪教伽藍が出現し、我國建築史上に於ける第二次の模倣時代が繰返された。これ宋元の直寫の時代である。而してこの後更に明の影響をも受けたのであるが、桃山時代殊に江戸時代に至つてはこれ等が全く日本化され日本特有の表現をとつたのである。明治維新よりは西洋建築が輸入せられたのであつて、明治時代は西洋建築の模倣期であり、

1) 西田幾多郎博士の『自愛と他愛』は此原理の哲學的自覺であり、西田直二郎博士の『日本文化史序説』は此原理の文化史的自覺であると云ひ得るであろう。  
2) 拙著『精神科學的經濟學の基礎問題』第二八頁以下参照

大正昭和の時代は過渡期であつて、未だ日本化の時期には入つて居ないのである。

かくの如く西洋の諸文化が殆んど輸入し盡され、而も未だ日本精神に止揚せられて居らぬと云ふことは獨り藝術の域に於てみならず諸文化域に於ける我文化史上の現段階の特殊性である。<sup>1)</sup>かくてこれ等輸入文化を日本精神によつて止揚し以て明治維新に初まる第四の文化期を完成すると云ふことが今日以後の我國民の文化史的使命である。而して資本主義的經濟組織を中心とする現代我國の社會問題の特殊なる意義も亦こゝに存するのである。

抑も明治維新の變革は、日本の生命の發展が封建制度との矛盾に陥り、而して日本精神が、新なる自覺に呼び醒まされ、此封建制度を打破し新なる發展を遂げんとすることによつて起つたのであるが、此變革の中軸に立てるものは、大化の新政に於けるが如く、再び皇室であつて我國の歴史を貫いて「愛」を原理とする國民精神の體現者であつた皇室は今や再び國民生活の前面に現はれ來つたのである。即ち此大變革期に當り此變革の意識的中心點となり新らしく醒めたる日本精神を代表されしは 明治大帝であつた。

大帝は『維新の詔』に於て「中葉朝政衰へてより武家權を専らにし表には朝廷を推尊して實は敬して是を遠け億兆の父母として絶て赤子の情を知ること能はざる様計り成し…上下相離るゝこと霄壤の如し」と宣はれまた「今般朝政一新の時に膺り天下億兆一人も其處を得ざる時は皆朕が罪なれば、」と仰せられ、更に「君臣相親しみ上下相愛し德澤天下に洽」き往昔を顧み給ふて居らるゝ。

1) 例へば經濟學についても、今は總ての學派が輸入し盡されたが、此等を止揚し眞の日本的生命の表現としての經濟學は未だ現れて居ない。

かくて此詔に於ては「愛」を原理とする日本精神が新なる自覺に齎され、我國民生活に於ては一切の人が人間たる生活を享けねばならぬと云ふ「國民愛」の精神が高調されてある。これ即ち明治維新の究極目的又は目的因ものである。

而してこの新なる自覺に齎されたる日本精神を實現すべき道は『五條の御誓文』に於て示めされてゐるのである。即ち

「一、廣く會議を起して萬機公論に決すべし。一、上下心を一にして盛に經綸を行ふべし。一、官武一途庶民に至る迄各其志を遂げ人心をして倦まざらしめんことを要す。一、舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし。一、智識を世界に求め大いに皇基を振起すべし。我國未曾有の變革を爲さんとし朕躬を以て衆に先んじ天地神明に誓ひ大に斯國是を定め萬民保全の道を立んとす。衆亦此旨趣に基き協力努力せよ。」と宣ふ。即ち此御誓文に於ては日本の生命の新なる發展を計るが爲めにこれを阻害する一切の舊制度を打破しこの發展に資益すべき一切の制度を打立てるべきことが示されて居る。

かくて西洋の文物は盛に輸入せられたのであるが、此西歐に於ては、既に資本主義的經濟制度が著しき發達を遂げ、偉大なる物質文明の基礎を形成して居たのである。即ちマルクスの『資本論』第一卷が世に出た西曆一八七六年は正に明治元年の前年であるが、西歐に於ける資本主義的經濟制度はマルクスによつてかくも十分なる批判を受けるまでに發達して居たのである。此資本

主義制度なるものは最も重要なものの一として我國に取入れられたのであつて、其偉大なる生産力は我國の文化の發展の爲めに著しき功獻をなしたのである。

然しながら資本主義なるものは、單なる制度にあらずして、それ自身一つの世界觀、人生觀に基く表現であり、従つてそれ自身の生命を有して居るのである。それはマルクスが適切に云へるが如く、既に中世に於て高利貸として現れしユダヤ的又はシャイロツク的精神が、産業革命により中世的なる社會的束縛が打破さるると共に、自由に自己を活躍表現せしむることによつて成立するに至れる經濟制度である。故にそれは根本に於て、個人主義的唯物主義的なる人生觀に立てるものである。かくて此資本主義なるものが我國に於て發展し行くにつれ、その個人主義的唯物主義的原理は單に我國民の經濟生活のみならず政治教育其他の諸文化域を侵して行つたのである。茲に現代社會問題を構成するところの社會的病的狀態の多くのものが發して居るのである。而して思想調査會が現代思想左傾の原因として掲げてゐる病的なる諸事情も、殆んど總てこれに屬するのである。即ち文部省の委員會は「社會的情勢」として舉げて居るところの「資本家と労働者との生活の甚しき懸隔及び農村の著しき疲弊」「労働問題及び小作問題の激化」「中産階級の經濟的顛落」「卒業後に於ける就職の不安」「政界の腐敗」「政治並に政黨に對する不滿」「物質偏重的傾向」のみならず、更に「自然科學的見地の偏重」「教育の功利的傾向」等は總てこれである。かくて『五ヶ條の御誓文』を根本精神として出發せし明治維新の變革は、今や其御趣旨とは甚だ遠ざかれ

るものとなつたのである。即ち御誓文には「廣く會議を起し萬機公論に決すべし」と宣はせられて居るのであるが、事實今日の政黨政治に於ては萬機は結局に於て金融資本家階級によつて決せられて居る場合が少くないのである。これ委員會が「政界の腐敗、政治並に政黨に對する不滿」と云へるものである。また「官武一途庶民に至る迄其心を遂げ人心をして倦まざらしめんことを要す」と宣はせられてあるのであるが、今日の多くの人々は働かんと欲するも社會は働かさないのである。而も働かざるが故に食を與へられないのである。而してこのことは大學を卒業せる多くの青年の運命とすらなつて居るのである。其結果は委員會が「卒業後に於ける就職の不安」と云へるところのものである。

かくの如くにして現代日本の社會問題の根本原因は、個人主義唯物主義の原理に立てるところの外來文化たる資本主義制度が全體主義理想主義を固有の原理とする日本國民精神と矛盾衝突に陥りたる點に存するのである。即ち我國民は今や、資本主義精神が主となつて日本精神を全く支配するか又は日本精神が主となつて資本主義的生産組織を驅使し得るかと云ふ一大危機に立つて居るのである。

かくて資本主義制度が、其個人主義的唯物主義的原理を以て、全體主義理想主義的なる日本固有の精神を更に墮落せしめ行くならば、明治大帝によつて肇められたる維新の大業は茲に全く失はれることとなるのである。これに反して我國固有の精神が、この全體主義理想主義の原理を以

て、外來文化たる資本主義制度の個人主義的唯物的原理を置き代へ、以て其生産組織自體が有する巨大なる生産力を驅使して我國民全體の眞の向上の爲めに用ゐるに至るならば、茲に初めて明治大帝が「天下億兆一人も其處を得ざる時は皆朕が罪なれば」と仰せられし維新の大業が完成せらるべき最も重要な經濟的基礎が置れることとなるのである。而してこの維新の大業の完成に向つて相携へて努力することが今日我國民の重大なる使命である。

而して今日思想對策なるものが、何等かの意義を有するものであるとすれば、それは此國民的重大使命に功獻するところのものでなくてはならないのである。

#### 四、現代社會問題の意義に基く思想對策の考察

社會變革期に於ては社會變革に關する諸種思想が生し而して互に對立鬭争するに至るものであるが思想對策なるものはこれ等の思想を對象とせるものである。而して正しき思想對策なるものがあり得るならば、それは其社會的生命をして正しき發展を遂けしめ得る様に、此等の諸種思想を批判し指導するところのものでなくてはならない。かくて我國の現代につき正しき思想對策なるものがあり得るならば、それは我國現代の社會問題の意義を十分に把握し、日本國民的生命の正しき發展の爲めに爲さるゝものでなくてはならないのである。若しこれに反して初めより一定の成心を有し或思想體系を克服せんことを目的とするが如きものは反つて社會の正しき發展

を阻害するものであり眞に其國民を愛するものとは云ひ得ないのである。

文部省の思想問題調査委員會が思想の『原因』の第一に於て「社會の情勢」として現社會の病的諸狀態を忌憚なく卒直に列擧せることは甚だ適切であるけれども、然し更に進んでこれ等諸病的狀態の原因の何に存するかを明にせざるは不可である。即ちこれが原因を明にしてこそ初めて現代社會の問題の解決に眞に資益すべき思想對策を打立て得るのである。

扨て此根本原因を明にし、而して此を除去し以て日本の生命の新なる發展を計らんとすれば必ず資本主義の本質並に構造を眞に理解しなければならぬのである。然るに資本主義の本質並に構造を眞に理解せんと欲すればマルクスを研究することは必要なのである。これデイルタイが明にして居るが如く精神科學に於ける理解は、自己の生命を生命の表現たる對象の中に没入せしめることによるのであるが故に、認識對象の生命と認識主觀の生命との間に内面的の結びのある程深き理解に達し得るのである。かくて日本文化を眞に理解し得るものは日本人であるが如く、ユダヤ的原理に立てる資本主義制度を初めて鋭き學的認識に高め得たものはユダヤ人リカルドウであり、このリカルドウの研究を基礎として資本主義の哲學的研究並に經濟學的研究を初めて確立し得たるものは同じくユダヤ人マルクスであつた。かくてペストなる外來の病氣にかゝりし日本人が外國に於て研究されたるペストの病理學を當然に利用して病を醫せんとすると同様に、外來文化たる資本主義により社會的病氣となれる現代の日本の其病源を明にするが爲めにマルクス研究



をなすことは必要なのである。委員會はマルキシズムを外來思想なりとして徒に忌避する如き傾向があるのであるが、此點に於ても『五條の御誓文』の精神に従ひ廣く「智識を世界に求め」なければならぬのである。然しながらマルキシズムが現代日本の社會問題の解決に對して有する意義には一定の限度があるのである。即ち我々の身體が病に冒されて居る時、醫藥がこれに對して爲し得るところは只其病源を抑壓し以てその身體に内在する健康力の作用を自由にし以て健康の回復を計るにあると云はるるが、このことは正に現代の日本の社會についても云はれ得るのである。

即ち今日日本の生命の發展は資本主義的病氣に妨げられて居るが故に、我々は資本主義制度の病理學により資本主義制度の本質を明にし其有害なる作用を抑壓しなければならぬのである。然しこれを抑壓するは日本の生命の積極的原理を自由に働かしめんが爲である。即ち現代社會問題の消極的原理は資本主義に於てあるのであるが、其積極的原理は日本の國民的生命自體にあるのである。かくて日本の國民的生命自體を明にすることが最も肝要なことなのである。而してこのことは日本歴史の正しき文化史的研究によつてのみ初めて十分に達し得られるのである。委員會が我國民族文化の研究を高調せるは此意味でなくてはならぬ。

以上の諸研究を待つて初めて現代の資本主義制度が如何に日本の生命の發展を阻害しつゝあるか、而して日本の生命の新なる發展の爲めにはこの資本主義制度を如何に止揚すべきかを學的に究明することが出来るのである。而してかくの如き研究こそが現代日本の正しき發展にとつて最

も必要とするところのものである。委員會は「マルキシズムに對抗するに足る理論體系の建設を目的とする有力なる研究機關」を設けることを必要として居るのであるが、單にマルキシズムに對抗する體系はマルキシズムを征服し得るものではない。眞にマルキシズムを征服し得る體系はマルキシズムを根本的に研究し理解し以てこれを其中に止揚した體系でなくてはならない。而してかくの如き基本的なる研究こそは「國家に須要なる學術の蘊奥を究める」綜合大學に於ける經濟學部の現代に於ける重要な任務でなければならぬのである。

綜合大學に於ける經濟學部がかくの如き任務を十分に果し得んが爲には、今日よりも一層日本並に東洋の研究に力を用ふると共にマルキシズムの基本的研究にも意を用ひ、以て正しき實踐學の確立に努力しなければならない。而して今日經濟學部をも等しく冒さんとしつゝある所謂「學校に於ける教育の功利的傾向」を排し、經濟學部を經濟學の本來の意義に於ける經國濟民の學を研究する學部として、私經濟學を主とする商科大學より區別されたるその特徴を十分に發揮せしむることを要するのである。かくの如き經濟學部こそ初めて明治時代に於ける大學が我國の發展を指導せしが如き功獻を現代日本の發展に對して爲す事が出来るのである。而して大學をしてかくの如き學的研究の使命を完ふせしむることが文部省の最要なる使命なのである。所謂『思想對策』のなるものがあり得るとするならば、それはかゝる大學的研究を基礎とし初めて正しく成立ち得るのである。

## 五、結 論

要するに文部省の思想對策なるものは、これによつて現代日本の社會教育の根本方針が規定されんとして居るところのものであり、而して教育なるものは社會の進歩に對して最も根本的永續的影響を與ふるものである。即ちこの教育の方向が正しき時にのみ日本の生命の正しき進展を期し得るのである。かくて思想對策なるものは最も慎重に確定せられねばならぬ。而してこれを確立せんとせば其根柢に於て我國現代の社會問題の意義が學的に把握されて居らねばならぬ。而もこれを學的に把握することは眞の學的研究に待たねばならぬ。而もこれ等の學的基础にもまして必要なるものは眞に日本を愛する誠意でなければならぬ。これその一切は日本の生命の正しき發展の爲めに爲さるゝものなるが故である。

資本主義の唯物主義的個人主義的原理は今や我國文化の總ての域を食ひ盡さんとして居る。委員會の所謂「政界の腐敗」も亦こゝに發することは前述せしところであるが、今若し文教を掌る文部省當局にして萬一此資本主義的原理に冒さるゝが如きことあらば、多くの學者と教育者も亦事實上此原理に冒さる結果となり、學問研究の自由も正しき教育も望み得ざるに至るであろう。文部當局がこの點に留意せられんことは文部省による思想對策の立案にもまして我國の正しき進展の爲めに重要なことであろう。（五月五日）